

【第3回】在宅医療・介護連携協議会議事録 【要旨版】

開催日時：平成30年3月15日（木）19:00～

開催場所：東松島市役所 本庁舎 101会議室

報告事項 （1）東松島市地域包括支援センターについて

（2）居宅介護支援事業所アンケート及び訪問調査の結果について

議事 議題1 平成29年度の事業進捗状況及び平成30年度事業の取り組みについて

報告事項、議題に関する意見

【委員】

平成30年度の取り組みについては、すべて実施するのか。

【事務局】

特に一覧の赤字で示した部分を強化して取り組んでいきたい。主に人材確保・育成の部分や小・中学校を対象にした職場体験等のPRなどに力を入れていきたいが、その他の部分についても同様に取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

アンケートについて、いろんな職種に対するケアマネさん方の評価があって、とてもわかりやすかったと思う。

県の方でも医療・介護の連携を考える研修会で、ケアマネを対象とした研修を実施し、同様のアンケートを取らせてもらった。80人ほどを対象としたもので、今報告があった通りの内容だった。研修はグループワーク等しながら、お互いケアマネ同士が交流する機会などがなくなっているということで、とてもいい機会だったという意見があった。

アンケートにもあったように、医療機関の相談の窓口がわかるようなものがあればいいとか、病院により窓口が連携室だったり看護師だったり、介護保険について理解を得られないという意見も出ていた。ケアマネ自身が積極的に医療機関に入っていくのはもちろんのことだが、医療機関側のスタッフにも自分たちを理解して欲しいという意見もあった。県としても医療・介護の連携を進めていく中で、何ができるかを考えていきたいと感じた。県と市町がどの役割等を担っていけば良いか、担当者間で話し合いを進めている最中なので、重なる部分は効率的に、市町がそれぞれで進める部分、広域で進める部分といったように棲み分けしながらやっていきたい。

【委員】

西部包括支援センターの抱負をお願いしたい。

【委員】

病院内にセンターを設置する予定で進めている。これまで、病院の連携室としては関わらせてもらったが、包括としては初めてのことなでの毎日が勉強中だ。対象となる住民の方に自ら働きかけ、顔を出していくことを基本姿勢にやっていきたい。

【委員】

東部での現状等についてお願いしたい。

【委員】

相談件数が増えているなか、今回2つに分かれて運営することで、市民にとって便利な相談対応ができると感じている。また、アンケートにあったように、こちらの誠意不足と受け取られた結果が出てしまったので、東部と西部合わせて支援に力を入れていきたいと考えている。

【委員】

これから相談件数もさらに増えてくると思われるので、お互いの連携だったり役割分担を明確にし、スムーズな運営をお願いしたい。

その他アンケートについて、皆さんから意見をいただきたい。

【委員】

おいおいの会での地域連携評価とか、参加後の自身の変化などに関する分析がある程度終わり、現在、会への要望などについて取りかかっている。

ヒアリングの報告にもあったように研修でのグループワークが苦手だとあった。ただ、グループワークが苦手な人たちにどうアプローチしていくのが大切であり、地域の中で多職種が手を携えて関わっていく上で、コミュニケーション力を底上げしていくことは必要なことだと思う。グループワークが苦手という人がいるからやめるのではなく、いかに自然な形でグループワークに慣れてもらえるのかという工夫が、今後、県や市が実施する研修で求められると思う。

専門職を養成する教育機関として、アクティブラーニングやグループワークも取り入れているが、抵抗感なく効果的にやっていけるような人材の育成に努め、そういう人材を現場でも育てていく工夫が必要かと思う。

【委員】

私もグループワークは苦手ですが、職業上、プロフェッショナルとしてそうは言ってもらえないと思うので、人前で自分の意見だったり話をするのは必要であり、そういう場があるというのは大切なことだと感じている。

【委員】

専門職のプライドがあって、いまさらこんなことを聞けなかったり、グループワークに抵抗感を感じている方もいるので、そういう垣根をなくし自由に意見交換できる雰囲気づくりも必要だと思う。

【委員】

アンケートを見て、民生委員との関わりや、様々な専門機関との関わりの難しさや課題が見れたという感想だ。多職種のスムーズな連携は、市民や我々が関わる時に安心して医療・介護を受けられると感じている。

包括センターが東部と西部に分かれることについて、民生委員も高齢者と地域の中で関わっている色々な情報をもとに、相談を受けたりするが、このようなときどこに電話を入れたらいいのか、困り事が解決するのかなということを知りたいという意見が出た。

包括支援センターやそれ以外の形態のセンターなりが、どういうところで、どういう連携が取れるのか、知りたいという意見があったので、それを住民の皆さんに少しでも共有したいということを考えていた。

【委員】

民生委員とケアマネジャーとの接点はないのか。

【委員】

特にない。区長に相談したり包括に連絡したり、あと特に親しい方などに対応してもらおうといった感じだ。最近は個人情報の関係で確認に時間がかかったり、なかなか踏み込めない状況がある。

【委員】

包括の対応はどうか。

【委員】

民生委員からご連絡いただいて、ケアマネに直接電話で状況確認したり、人によりけりだが、その相談が1本あると直接民生委員が確認する場合も中にはあると思う。

【委員】

いずれ、こういう事業の内容や情報を、民生委員もある程度知っておきたいという思いはある。

【委員】

ヒアリングの課題で、独居や認知症の相談など、これらの対策をどうしようかというのが悩ましいところだと感じている。また、精神疾患の方が多いということで、我々が相談を受けていて大変だと感じている部分でもある。

【委員】

精神疾患の連携が困難というのはどういうことか。

【委員】

専門職の方につなぐという役割があるのかなと思っていますが、この専門職との連携がうまくいかない、うまくつながらなくて困りながら抱えてしまったというのがあった。

【委員】

専門職というのは病院のことか。

【委員】

保健師などだが、ケアマネも悩んでいたという結果を見て分かった。

【委員】

アンケートの中で、専門用語が医師、看護師、薬剤師とのやり取りで難しいというのが出てきているが、在宅に関する専門用語はある程度決まってくると思うので、そこをピックアップして示せば良いと感じた。ケアマネージャーが解釈を間違えると、そのままケアプランに反映されかねないので、そこは早いうちに進めた方が良いと感じた。

資料3で市内の小・中学校、高等学校へのPRとあるが、私は鳴瀬桜花小学校の学校評議員でコミュニティスクールの会議に出席しているが、地域住民と一緒に子どもたちを育てていくという考えがすごい強くて、評議員の方から高齢者との交流の場を作ったほうが良いという意見が出ている。教育部門と連携をとり、コミュニティスクールや高齢者施設などと連携していけば、将来的な人材確保につながると思う。

【委員】

アンケートでおいおいの会等の開催が夜ということで、参加が難しいと想像をしていたが、その通りの結果でなかなか行きづらいというのが分かった。参加できる時間帯の調整が必要と感じたが、我々も診療時間の都合もあるので、調整できる範囲内で研修会を開催していくことが大事だと思った。

研修会をおいおいの会等が主導に進めるのか、県、市が企画して進めていくのか調整が必要だと思うが、日中の研修を年に2~3回でもうまく連携し、開催できればと思った。

医師とケアマネとのやり取りが難しいという声が予想以上に大きいのかなと感じた。ケアマネには、我々もメール等で連絡して良いとは言ってはいるが、患者と個人のメール、連絡に戸惑いがあるのかなと感じている。

メール等でのやり取りで個人名や個人情報をごとまで開示して良いのか迷う方もおり、今後、ICTの活用など情報の漏えい等に配慮したツールの選定なども検討していかなければならないと考えていた。

【委員】

実際にケアマネージャーとのやり取りはどのようにしていますか。

【委員】

ケアマネージャーが分かれば直接その方に連絡したり、婦長から連絡していた場合もある。最近問題があり、私が思っていることと婦長が思っていることの認識のずれがあり、結局ほかの医療機関にお願いせざるを得なくなったということがあった。

うまくいった事例もあったのですが、最近のうまくいかなかった事例は、訪問看護ステーションと直接私がやり取りしなかったため、そこで食い違いが起こってしまった。結果的には患者にも迷惑をかけてしまったので、担当者に任せられるところと事例によっては私が直接対応しなければいけない事例とがあると感じた。

【委員】

直接ケアマネージャーとやりとりするっていうのはあまりないのですか。

【委員】

なくはないが、電話でうまくいきそうな場合は連絡しますし、複雑な内容で電話ではうまく伝わりにくいようなときは直接来ていただいて話していますが、件数的には少ない。

【委員】

先生のお考えでケアマネージャーとどういう連携の取り方だったら良いと思うか。私の所ではいつでもいいですよと話をしています。前もって電話で連絡くれる方もいるし、他でよく聞く、いったりかたりっていうのはあんまりないですね。

【委員】

私の所でもそういう相談は最近は少ないと思う。できれば事前に連絡をいただいて調整は可能だ。

【委員】

連携は取れているが、その先の活動でズレていたりする。でも、ここでの連携が取れないというのは、そもそも医者を取り合ってくれないってことですよね。

医者も2種類いて、甚だ申し訳ないが、介護に関して無関心な医者とそうではない医者がある。前者はやはり煩わしいという部分があるのだと思う。それは我々も真剣に取り組んでいかなければならないところだが、ケアマネージャーも面会の取り方を電話で連絡を取り合えればいいのかと思う。

それは兎にも角にも一度ケアマネージャーの方々がケアマネネットでもいいですから、我々と一度お話しをしながらお互い歩み寄ることも必要なだと思う。

【委員】

アンケートにもあったように薬剤師への相談の必要性やどこに相談して良いか分からない意見が非常に多かったで、周知が足りないと感じた。

一例として、この間の食べメッセで薬剤師会にもお声掛けいただいた。薬に見立てた飴とかチョコを使い、子どもや大人の方にもいろいろ体験してもらい、楽しさや大変さを理解してもらい良かったと思う。

グループワークですが、それぞれメリットデメリットがあると思うので、まずはそれを伝えることが必要だと思う。

【委員】

グループワークについて、慣れるまで大変で発言したくてもなかなか発言できずに終わってしまうことがある。進め方として年代別でベテランと分けて、若い世代同士でやらすすごい盛り上がるのではないかと思う。若手の意見として較対象にもなると思う。

【委員】

グループワークは司会進行が一番大事だと思う。司会はある程度経験のある方を1回目にやらせて、それで慣らしていくのが大事だ。

【委員】

地域づくりの話し合いをするときの意見交換など、発言力が強い人でほしい決まってしまう。司会がうまくまわして自己紹介などで場を和らげたり、雰囲気が変わってくるので話の上手な人に進行してもらおうと意見がたくさんでてる。

【委員】

学生の面接で仕事のコミュニケーションどうですかときいたら、苦手だと言う人もいる。こういう仕事だからこそコミュニケーションが得意なのかと思いきや、苦手としている人たちも少なからずいる。それが勉強会への足かせとなっている可能性もあると感じて聞いていた。

アンケートの中でも、ケアマネジャーが医師ともつながっているという前向きな意見とか、おいおいの会のアンケートの中でも非常に有効だという意見が多数あったという意味では、特に女性ケアマネジャー多い中で、日中時間帯での勉強会等の開催により、こういう課題が一気に解決してくる可能性があると感じた。ただ、先生方もお忙しいと思うので、日中の時間帯のすり合わせの検討が必要だと感じた。

ケアマネジャーの役割も本来の役割に加え、家族の課題解決に向けた動きも必要とされ、業務の線引きが非常に難しくなっている。ケアマネジャーによってはうまく医師と調整して連携しているメンバーと、そうでない方もいると話があった。

今回、ケアマネジャーからアンケートを取ったが、他の介護事業所や医療機関側からケアマネジャーに求めるものは何かを集約し、お互いの立場から何を意識しながら進めていけばいいのか、また、その逆も見えてくるのではないかと感じた。

入退院時の連携において、生活相談という役割で医療ソーシャルワーカーの窓口機能がきちんとしている病院だと非常にやりやすい。また、医師がどう考えているのか、ご家族の意向など、つなぎとして医療ソーシャルワーカーが非常に大きな役割を担っている。

各医療機関でそれぞれの考え方もあるが、医療ソーシャルワーカーがいると非常に大きいとケアマネジャーから聞いている。

【委員】

さきほど包括から精神の専門職として保健師との話があったが、保健師もすべてを出来るわけではないので、どういう関わりがいいのか、何に困っているのか、きちんと情報をお互いに取りながらやれらいいなと思っていた。家族が相談に行くときに医療機関にはなかなか行けないというときに、精神保健相談ということで病院に行くのとは違う、家族だけが相談に行くといったルートがあるので、そういったところも活用していただければと思う。

【委員】

それでは報告事項と議事に対する意見はこれでよろしいですか。

今回はアンケートについての話が多かったようですが、これは医者とケアマネジャー双方で歩み寄るということが必要なので、お互いの業務に対する理解が必要だと感じた。

他の介護の方たちとの連携も同じように、垣根をこえるということが必要なので、おいおいの会がそういった助けになればと思う。

ご意見なければ第3回の宅医療・介護連携協議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

終了時刻 20 : 40

以上